

2017年11月15日

スズキ「スイフト」が 2018年次 RJC カー オブ ザ イヤーを受賞



スイフト HYBRID RS



スイフト HYBRID SL



スイフトスポーツ

スズキ株式会社の小型乗用車「スイフト」が、NPO法人 日本自動車研究者ジャーナリスト会議 (RJC) が主催する「2018年次 RJC カー オブ ザ イヤー」を受賞した。

今回受賞した「スイフト」は、2004年の発売開始から3代目にあたるモデルで、スイフトとして3代連続しての受賞となった。スズキ車が「RJCカー オブ ザ イヤー」を受賞するのは、「ワゴンR」(1993年)、「ワゴンR/ワゴンRスティングレー」(2008年)、「スイフト」(2005年、2010年)、「ハスラー」(2014年)、「アルト」(2015年)に続き、2年ぶり7度目となる。

RJCの受賞理由は、「スイフトシリーズはスポーツやハイブリッドもバリエーションにそろえ、幅広いユーザーに対応。特に6速MTのスイフトスポーツは、動力性能、操縦性も優れ、高いスポーツ性を持つ。独自の機構を持つハイブリッドは、5AGSともマッチングしたもので、利点の多いハイブリッドを廉価に提供した。」としている。

「スイフト」は、個性的でスポーティーなデザインに、しっかりしたハンドリングと高い走行性能、使い勝手の良さ等を特長としたコンパクトカーである。軽量化と高剛性を両立させた新プラットフォーム「HEARTECT (ハーテクト)」に、1.2Lデュアルジェットエンジン、1.0L直噴ターボエンジンを搭載。1.2Lエンジンは、マイルドハイブリッドに加え、モーターによるEV走行も可能としたスズキ独自のハイブリッドシステムを組み合わせるなど、多彩なパワートレインを採用している。「スイフトスポーツ」は、1.4L直噴ターボのブースター ジェット エンジン、新開発サスペンション等の採用により圧倒的な動力性能とハンドリング性能を実現し、クルマを操る楽しさをさらに高めた。

衝突被害軽減システム「デュアルセンサーブレーキサポート (DSBS)」をはじめとする安全装備を設定するなど、お客様のニーズに細かく対応するモデルをラインアップしている。

スイフトシリーズは2004年の発売以来、日本をはじめ欧州を中心とした海外市場において高く評価されてきた。スズキの主力コンパクトカーとして、世界で累計577万台※を販売している。

※ 2017年9月末現在。スズキ調べ。

●「2018年次 R J C カー オブ ザ イヤー」の概要

27回目を迎えた本年度の「R J Cカー オブ ザ イヤー」の選考は、2016年11月1日から2017年10月31日までに発表された国産車を対象に、R J C会員の投票によって実施された。11月1日に「6ベスト」が選出され、その中から11月14日の投票によって2018年次R J Cカー オブ ザ イヤーが決定した。

【R J C カー オブ ザ イヤー】 スズキの受賞歴

回	年次	受賞内容	
第3回	1993～ 1994年次	R J C ニューカー オブ ザ イヤー	ワゴンR
		R J C マン オブ ザ イヤー	取締役社長 鈴木修
第15回	2006年次	R J C カー オブ ザ イヤー	スイフト
第16回	2007年次	R J C パーソン オブ ザ イヤー	取締役社長 津田 紘
第18回	2009年次	R J C カー オブ ザ イヤー	ワゴンR／ワゴンRスティングレー
第20回	2011年次	R J C カー オブ ザ イヤー	スイフト
第22回	2013年次	R J C テクノロジー オブ ザ イヤー	スズキグリーン テクノロジー
第24回	2015年次	R J C カー オブ ザ イヤー	ハスラー
第25回	2016年次	R J C カー オブ ザ イヤー	アルト